

令和7年度 浜松市立三ヶ日西小学校 学校評価報告書

1 自己評価

自己評価結果、考察及び改善方策
別紙（学校便り）のとおり

2 学校関係者評価

2月20日(金)に開催した学校関係者評価委員会（学校運営協議会）において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。詳細は別紙（CS だより）のとおり

- ・今学んでいることが将来や自分の成長にどう繋がるのかを子供が実感し、自己調整しながら深く学べるような、目的意識を持たせる指導が重要である。
- ・学ぶことの意味・意義について、授業での意識付けが大切である。また、ICTを効果的に活用し、児童に寄り添った個別の支援を行う工夫が必要である。
- ・時間外勤務の減少など、職場環境の改善を評価しつつ、それが教育活動の「おろそかな対応」に繋がらないよう、効率化と質のバランスが必要である。
- ・教員の負担軽減と教育活動の充実を両立させるため、学校ボランティア等の外部人材を、授業や生活の各場面でもっと積極的に取り入れていけるとよい。
- ・「いじめ防止基本方針」に基づき、学校・地域・家庭で連携し、いじめのない学校にしていきたい。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

◇不易と流行のバランスの取れた教育活動

不易（過去からの大切にすべき教育）と流行（ICTをはじめ、新たに導入していく教育）のバランスを取りながら教育活動を進めていく。

◇教育活動の見える化推進

本校の教育活動を保護者に一層理解していただけるよう、見える化していく。そうすることで、学校と家庭の視点を揃え、それぞれができる教育の在り方を見出すことができる。

◇学びの目的意識とキャリア教育の推進

「なぜ学ぶのか」という意義を丁寧に伝え、今取り組んでいることが自身の成長や将来に繋がることを実感できる指導を行う。また、児童が自己調整しながら深く学ぶ姿勢を養い、物事を自分事として捉えて主体的に生きる力を育む。

◇コミュニティ・スクールを通じた地域連携の深化

学校ボランティアの活用を一層充実させ、教職員の働き方改革と教育活動の質的向上を両立させる。地域の方々の知見を授業や生活指導に積極的に取り入れ、社会と接点のある豊かな学びの環境を構築する。

◇基礎基本の定着に向けたICTの戦略的活用

ICT教材を効果的に用いて視覚的・個別最適なフィードバックを行う。授業内での意識付けとデジタルツールの利点を組み合わせ、基礎学力と学習意欲の向上を図る。

◇いじめ対策の継続・推進

「いじめ防止基本方針」に基づき、学校・家庭・地域の役割を明確にして周知するとともに、温かい人間関係を構築する生徒指導に努める。

<学校評価の結果>

令和7年度の学校評価アンケートに御回答いただき、ありがとうございました。

◇児童の評価

- ・「危機管理」「ICT教育」「学校教育目標」「地域学習」等に関する項目で肯定的な回答が多く見られました。
- ・一方で、8割を超える肯定率ではあるものの、「家庭・学校への相談」「食育・健康」「体力向上」「いじめ0」に関する項目で課題が見られました。

◇保護者の評価

- ・「学校教育目標」「目指す子供像」「食育・健康」「家庭と学校の連携」に関する項目で肯定的な回答が多く見られました。
- ・一方で、「家庭学習」「学びを夢や目標につなげる」「あたたかい聞き方・話し方」「課題解決力」に関する項目で課題が見られました。

◇教職員の評価

- ・「学校教育目標」「目指す子供像」「道徳教育」「家庭と学校の連携」「地域との連携」に関する項目で肯定的な回答が多く見られました。
- ・一方で、「課題解決力」「学びを夢や目標につなげる」「学力の定着」「家庭学習」に関する項目で課題が見られました。

◇三者の評価比較から

- ・児童・保護者・教職員の結果の中で、学校の土台・環境に関する項目（「学校教育目標」「目指す子供の姿」「危機管理」「地域との連携」）において、三者ともに高い肯定率が見られました。
- ・一方で、「家庭学習」「学びを夢や目標につなげる」「課題解決力」の項目では、三者の評価にギャップが見られました。

学校評価の結果をふまえ、本年度の教育活動及び評価をまとめ、次年度への計画に生かしていきます。



CS だより 第3回学校運営協議会（2月20日）の様子

- ◇「本年度の取り組み」・「学校関係者評価」・「いじめ防止基本方針」
 - ・今学んでいることが将来や自分の成長にどう繋がるのかを子供が実感し、自己調整しながら深く学べるような、目的意識を持たせる指導が重要である。
 - ・学ぶことの意味・意義について、授業での意識付けが大切である。また、ICT を効果的に活用し、児童に寄り添った個別の支援を行う工夫が必要である。

◇次年度の学校運営の基本方針の概要説明

- ・時間外勤務の減少など、職場環境の改善を評価しつつ、それが教育活動の「おろそかな対応」に繋がらないよう、効率化と質のバランスが必要である。
- ・教員の負担軽減と教育活動の充実を両立させるため、学校ボランティア等の外部人材を、授業や生活の各場面でもっと積極的に取り入れていけるとよい。



◇今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- ・不易（過去からの大切にすべき教育）と流行（ICTをはじめ、新たに導入していく教育）のバランスを取りながら教育活動を進めていく。
- ・本校の教育活動を保護者に一層理解していただけるよう、見える化できるとよい。そうすることで、学校と家庭の視点を揃え、それぞれができる教育の在り方を見出すことができる。



<コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）とは？>

コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させ、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めています。

※学校運営協議会の中では、授業の様子と「6年生を送る会」のリハーサルも参観していただきました。リハーサルでは元気いっぱい練習していました。

